

ななしのごんべ もうたくさん

堺大空襲の絵本制作 田島征彦さん原画展

太平洋戦争末期の1945年7月、米軍機に堺市内が焼き払われた堺大空襲から10日で71年。その惨状を描いた絵本作家、田島征彦さん(76)の絵本原画展が9日、堺市堺区の堺市博物館で始まる。堺出身で、空襲で自宅を焼かれた田島さん。「絵本を作る人間として次の世代に伝えたい」と自らの体験を交えて描いた作品を展示する。

【椋田佳代】

当時、田島さんは5歳。空襲前に大阪・泉佐野に疎開したが、空襲で自宅が焼失し、向かいの家の少女が命を落とした。展示されるのは、2003年に出版された絵本「ななしのごんべさん」の原画。空襲で亡くなった少女をモデルにした「もも子」と、双子の兄弟との交流を軸に、堺大空襲の戦禍を描いた。脳性小児まひを患った吉村敬子さんとの共作で、10年以上かけて書き上げたという。

空襲によって日常が一変し、猛火の中を逃げ惑うもも子と双子。その不条理を水彩画で表した。物語は、3人が炎に包まれて「おかあちゃん」と叫ぶ場面で終わる。その後、堺大空襲

の死者数などを書き留め、「身元もわからない」「ななしのごんべさん」がたたくさうでした。田島さんは「僕にできることは、戦争の記憶を絵本の形で次の世代に贈ること」と語る。

出身地の堺で本格的な企画展を開くのは初めて。原画13点、型絵染など計約100点を展示する。田島さんはこれまで、姫路空襲を扱った「よしがもえた」など戦争をテーマにした絵本を書いてきた。今後も米軍基地が過度に集中する沖縄の現状を伝える絵本を制作するつもりだ。原画展「ファミタジ」を染める「たじまゆきび」展」は9月4日まで。



「ななしのごんべさん」の原画を手にする作者の田島征彦さん＝堺市で6日、三村政司撮影

堺大空襲

堺市は1945年3月から8月まで5回、米軍機の空襲を受け、旧市街地を中心に計1876人が死亡した。7月10日午前1時半ごろから約1時間半にわたった第4次空襲は「堺大空襲」と呼ばれ、市によると死者1860人、重軽傷者972人を出し、家屋1万8009棟が全焼した。

宇宙から1票 ムリ 大西飛行士初のケース

米露すでに

10日に投票票日を迎える国際宇宙ステーション在る日本の宇宙飛行士は投票できない。公選極観測隊員向けに「ファクト」を投じている。米露はISSは対象外。米国の宇宙飛行士は電子投票などでも投票することが可能。

宇宙飛行士の大西卓哉は日本時間7日午前にカザルスニューズロケットで、9日にISSに到着。両院の選挙(補選を除く)票日を宇宙で迎える日士が初めてだ。大西は宇宙局(NASA)の拠点サウス州ヒューストンに投票が可能だが、最終め6月22日の参院選公選を離れている。

米国は旧ソ連の宇宙「ミール」で長期滞在990年代にテキサス州、宇宙からの電子投票。2004年以降、際などにISSから投票している。ロシアも事前に人と宇宙飛行士がテレコムで面談。投票を代行組みが確立している。

教育に

幼いころから政治は身近でた。オヤジが何度も国政選挙に立候補していたので、選挙力にも乗りました。ただ、結局度も当選せず、選挙のたびに金をする。家で政治は禁句。「選挙」家族が不仲になる」といネガティブなイメージがあるも事実です。

2016
参院選